

横山内科 院内新聞

第31号
平成26年
11月

平成二十六年十一月十日、第三十九回患者講習会が行われました。今回は、「糖尿病最新の話題」をテーマに糖尿病内服薬や、最新の糖尿病治療の特徴について横山宏樹院長が講演を行いました。

糖尿病の最新の話題

糖尿病患者への治療は、血糖のみならず、血圧や脂質への積極的な介入に伴い、日々進化して脳梗塞、腎不全などの合併症が減少しています。これに伴い、



糖尿病の方の長寿化も進んでいます。

従来は、低血糖を起こしやすく、肥満を促進する副作用が問題となっていました。近年では、そのような問題点が改善され、新しい薬の開発が進んでいます。

最新の薬とは

低血糖を起こさずに血糖降下作用を持つ、DPP4阻害薬、GLP-1様製剤(注射薬)、SGLT2阻害薬が登場しました。この新しい薬は、どのような働きをするのか、何に注意するべきなのか、期待とともに不安もあります。

①DPP4阻害剤

インクレチンは、食物の刺激により小腸から血中へ分泌され、膵β細胞へ作用してインスリン分泌を促し、血糖値を下げます。インクレチンは、酵素(DPP4)により数分で分解され、働きを失います。このDPP4を阻害し、インクレチンの分解を抑える働きをもつのが、DPP4阻害薬です。

DPP4阻害薬は、単剤では低血糖を起こしません。全国的に糖尿病患者さんの半数以上の方に服用され、この薬の登場により、糖尿病患者さんの全国HbA1C平均値は、最近4年間で0.4%も改善しています。

②GLP1様製剤

インクレチンホルモンにはGLP1とGIPの2つ

があります。血糖コントロールへ大きく関わるGLP1が分解されにくい注射剤がGLP1様製剤です。これは、イン

スリンの分泌を促進させ、血糖を下げます。

その他、脳に作用して食欲を抑える、胃や腸からの食物の吸収を緩やかにする作用があります。これらにより体重を減少させる効果があります。



③SGLT2阻害剤

今年4月に、SGLT2阻害薬が新たに発売されました。この薬は尿糖排泄を促し、血糖値を下げ、今ま

でない新しい働きを持つ薬です。
この働きにより、体重減少、血糖値改善、中性脂肪低下、血圧低下作用が見込まれます。このため、心筋梗塞などの虚血性心疾患の発症を予防する効果が期待

健康的な食生活

たんぱく質(肉・魚・卵など)と塩分は控えましょう!!

①インスリン抵抗性に悪影響
カロリーを控えてもたんぱく質と塩分を控えないと減量できません!!

②たんぱく質と塩分は密接に関係
塩魚、焼肉にはタレや塩コショウ、冷奴に醤油、納豆にタレや醤油、ウインナーや練り製品にはそれぞれ、自体に塩分が含まれています。

塩分を控えるコツは?

味増、塩、醤油を控えて

酢・レモン、一味・七味、しょうが・わさび、コショウ・辛子へ変更を!!

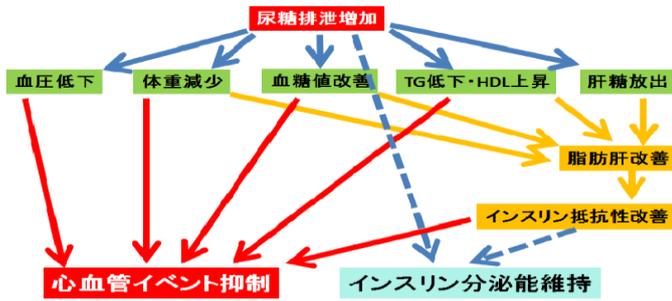
これらの食品は控えましょう!!

インスリン抵抗性症候群=メタボリックシンドローム

体重、中性脂肪、コレステロール、血糖、血圧

インスリン抵抗性環境因子、遺伝因子

SGLT2阻害剤への期待



Produced by Yokoyama H

されています。
しかし、糖尿病治療の基
本は食事療法です。塩分・蛋
白質の過剰摂取はメタボリ
ックシンドロームを増長さ
せます。食べ過ぎや偏食を
避け、バランスの良い食事
をすることが重要です。

歯周病への取り組み

糖尿病患者さんの長寿化に伴い、歯の健康を保ち、歯周病の管理を行うことは、QOL(生活の質)を維持する上で重要性が増してきています。通院患者様へ歯科受診を促し、歯の状況を把握し、食事療法や診療に役立てたいと思います。当院の新しい取り組みとして、内科・歯科の連携で皆様の健康支援を増進することを考えています。

院長より
多くの糖尿病治療薬がでており、各々が異なる特徴を有しています。これらに伴い、全国的に糖尿病患者の血糖コントロールは改善してきています。血圧も良好化しており、脳梗塞や心筋梗塞、腎不全の発症率は減っ

編集後記

十一月に入り、寒さがますます増してきたように思います。当院ではインフルエンザの予防接種も始まってきています。うがい、手洗いを心がけ、体調管理に気をつけて、風邪予防に努めましょうね。

第四十回患者講習会は平成二十七年二月開催予定です。皆様のご参加お待ちしております。

第四十回患者講習会は平成二十七年二月開催予定です。皆様のご参加お待ちしております。

